

調査の概要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満18才以上の男女個人	◆調査方法 郵送調査
	◆標本数 3,000 標本	◆調査期間 平成29年11月22日(水)～12月27日(水)
	◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数 1,611標本
		◆有効回収率 53.7%
調査項目	1 定住状況について	4 市政に対する評価と要望について
	2 生活環境の評価について	5 市職員について
	3 関心ごとと行動範囲について	6 がん検診について

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 男性	696	43.2
2 女性	889	55.2
3 その他	2	0.1
(無回答)	24	1.5
合計	1,611	100.0

2 居住区別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 川崎区	227	14.1
2 幸区	198	12.3
3 中原区	262	16.3
4 高津区	253	15.7
5 宮前区	255	15.8
6 多摩区	210	13.0
7 麻生区	197	12.2
(無回答)	9	0.6
合計	1,611	100.0

3 性/年代別

	全体		男性		女性		その他		無回答	
	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)
1 18～29歳	196	12.2	86	12.4	109	12.3	1	50.0	-	-
2 30～39歳	258	16.0	107	15.4	151	17.0	-	-	-	-
3 40～49歳	349	21.7	155	22.3	192	21.6	1	50.0	1	4.2
4 50～59歳	270	16.8	117	16.8	153	17.2	-	-	-	-
5 60～69歳	281	17.4	130	18.7	151	17.0	-	-	-	-
6 70歳以上	233	14.5	101	14.5	132	14.8	-	-	-	-
(無回答)	24	1.5	-	-	1	0.1	-	-	23	95.8
合計	1,611	100.0	696	100.0	889	100.0	2	100.0	24	100.0

1

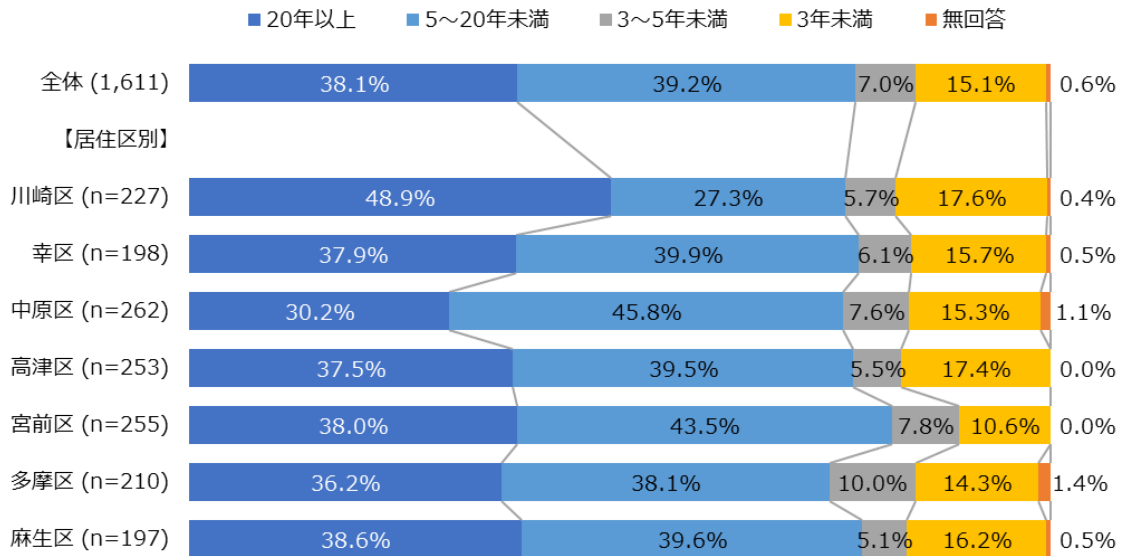
定住状況について

1 居住年数

居住地別でみると、＜長期居住者※¹＞は、川崎区(48.9%)で最も高く、麻生区(38.6%)、宮前区(38.0%)と続き、最も低いのは中原区(30.2%)であった。一方、＜中期居住者※²＞は、中原区(45.8%)で最も高く、次いで宮前区(43.5%)、幸区(39.9%)の順であった。なお、「3年未満」は、宮前区(10.6%)で最も低くなっている。

図1

※1 長期居住者：居住年数が20年以上 ※2 中期居住者：居住年数が5年以上20年未満

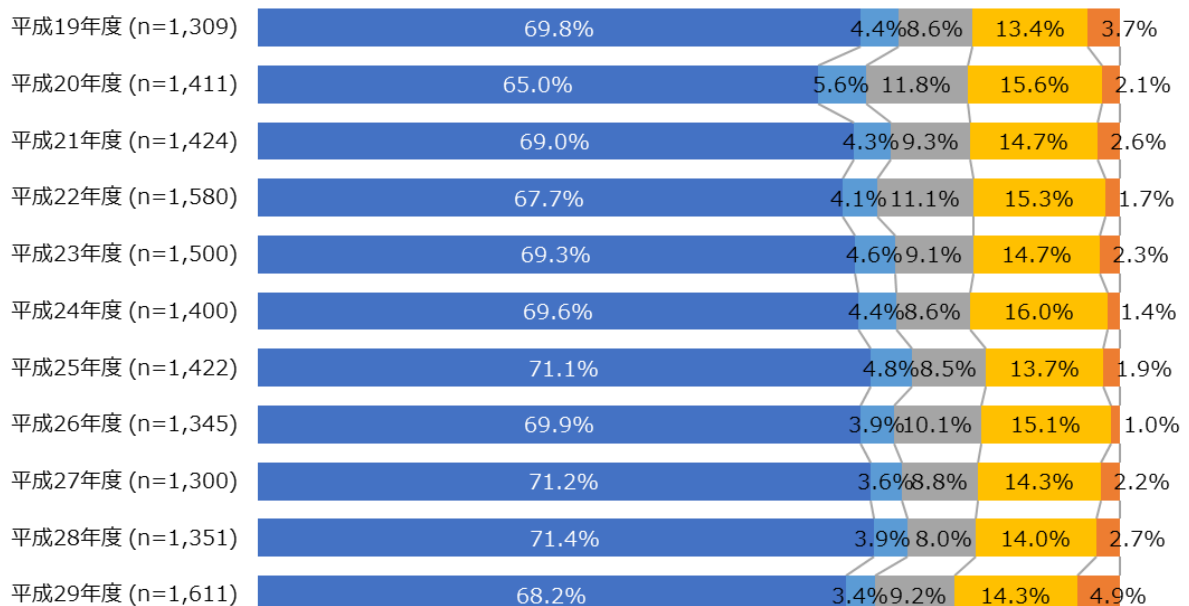


2 定住意向

「これからも住んでいたい」は、遡増傾向にあったが、今回は68.2%と昨年比で3.2ポイントの低下となった。

図2

■これからも住んでいたい ■できれば市内の他の区へ移りたい ■できれば市外へ移りたい ■わからない ■無回答



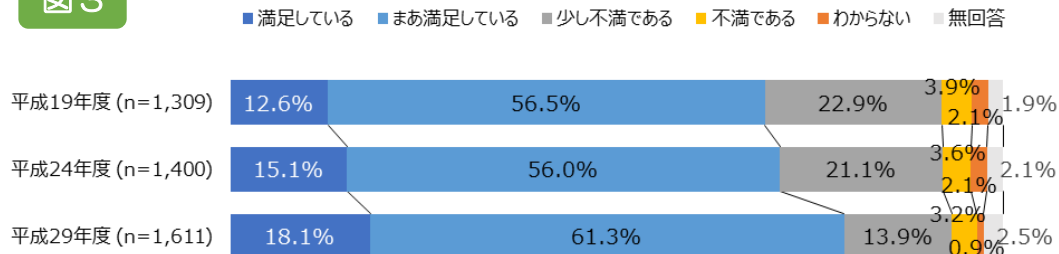
2

生活環境の評価について

1 総合的な生活環境の満足度

「満足している」(18.1%)と「まあ満足している」(61.3%)を合わせた<満足>は79.4%となっており、5年前(平成24年度)と比較して8.3ポイント、10年前(平成19年度)と比較して10.3ポイント増加している。

図3

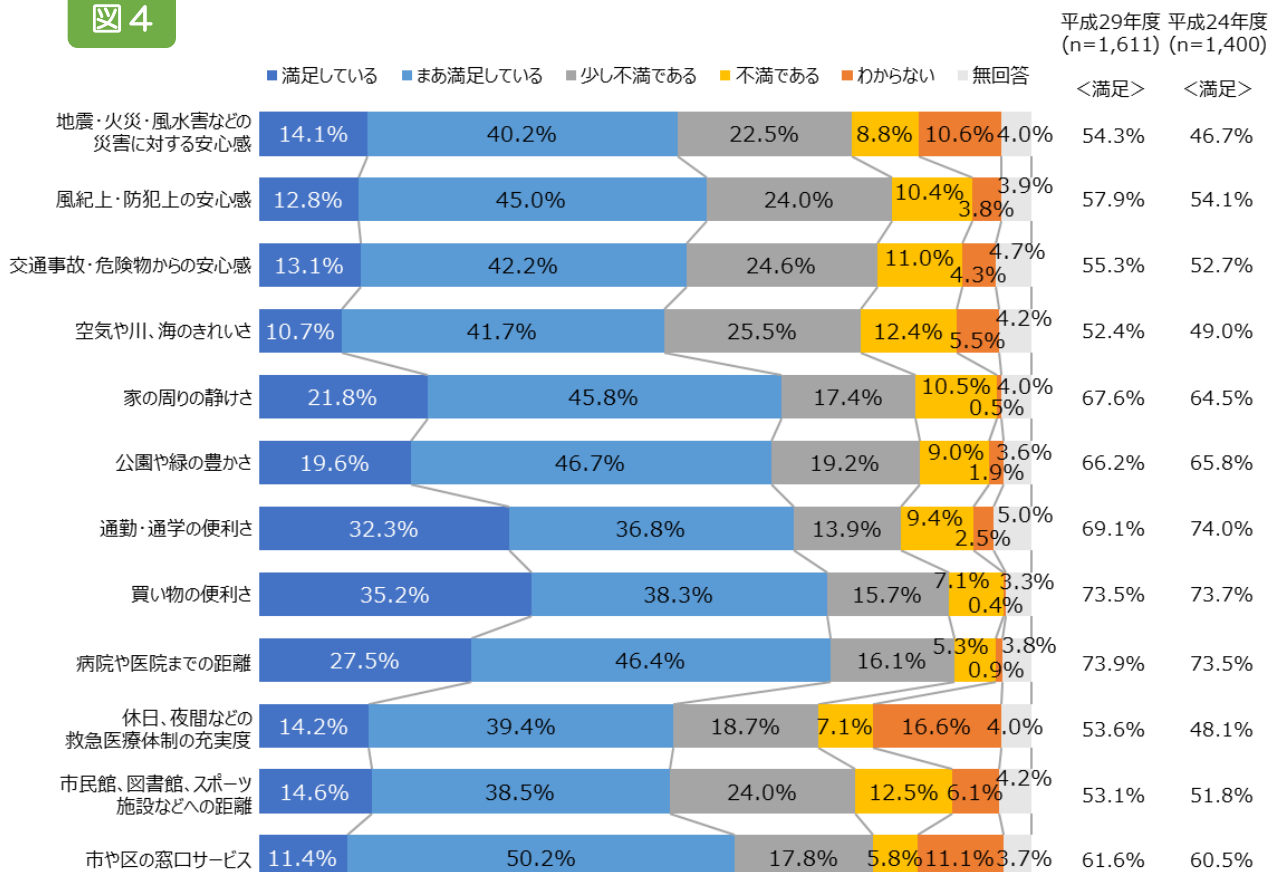


2 生活環境の満足度

「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「病院や医院までの距離」(73.9%)が最も多く、次いで「買い物の便利さ」(73.5%)、「通勤・通学の便利さ」(69.1%)の順であった。

5年前(平成24年度)と比較して、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は約8ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は約6ポイント増加している一方で、「通勤・通学の便利さ」では約5ポイント減少している。

図4



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

「健康」(64.8%)が最も高く、次いで「老後の生活」(49.2%)、「家族」(48.4%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(43.2%)、「お金・財産」(43.1%)、「趣味・娯楽」(34.6%)、「子ども」(33.5%)の順であった。

5年前(平成24年度)からの上位6項目の推移をみると、「健康」が常に首位で変わらず、第2位と第3位の「老後の生活」と「家族」についても、昨年からの変動はなかった。

図5 (複数回答) (n=1,611)

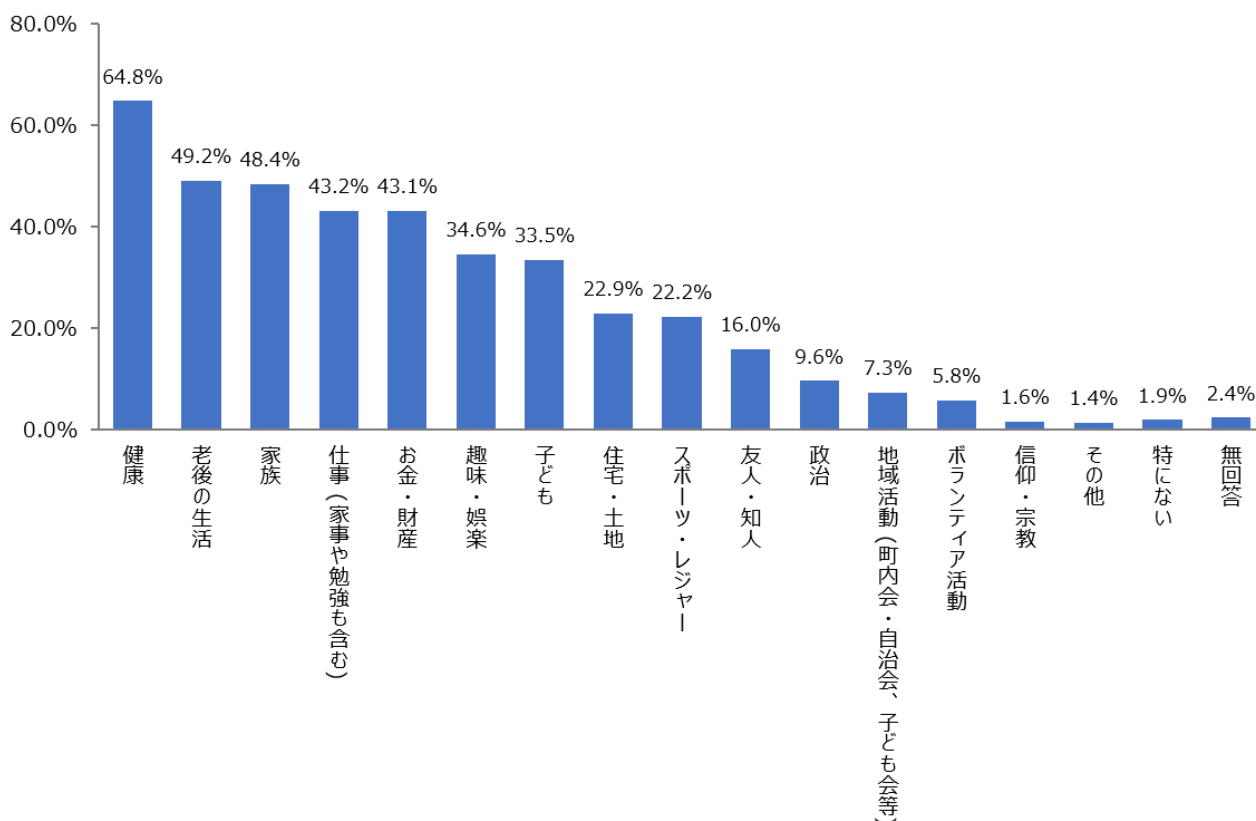


表1 過去5年経年比較(上位6項目)

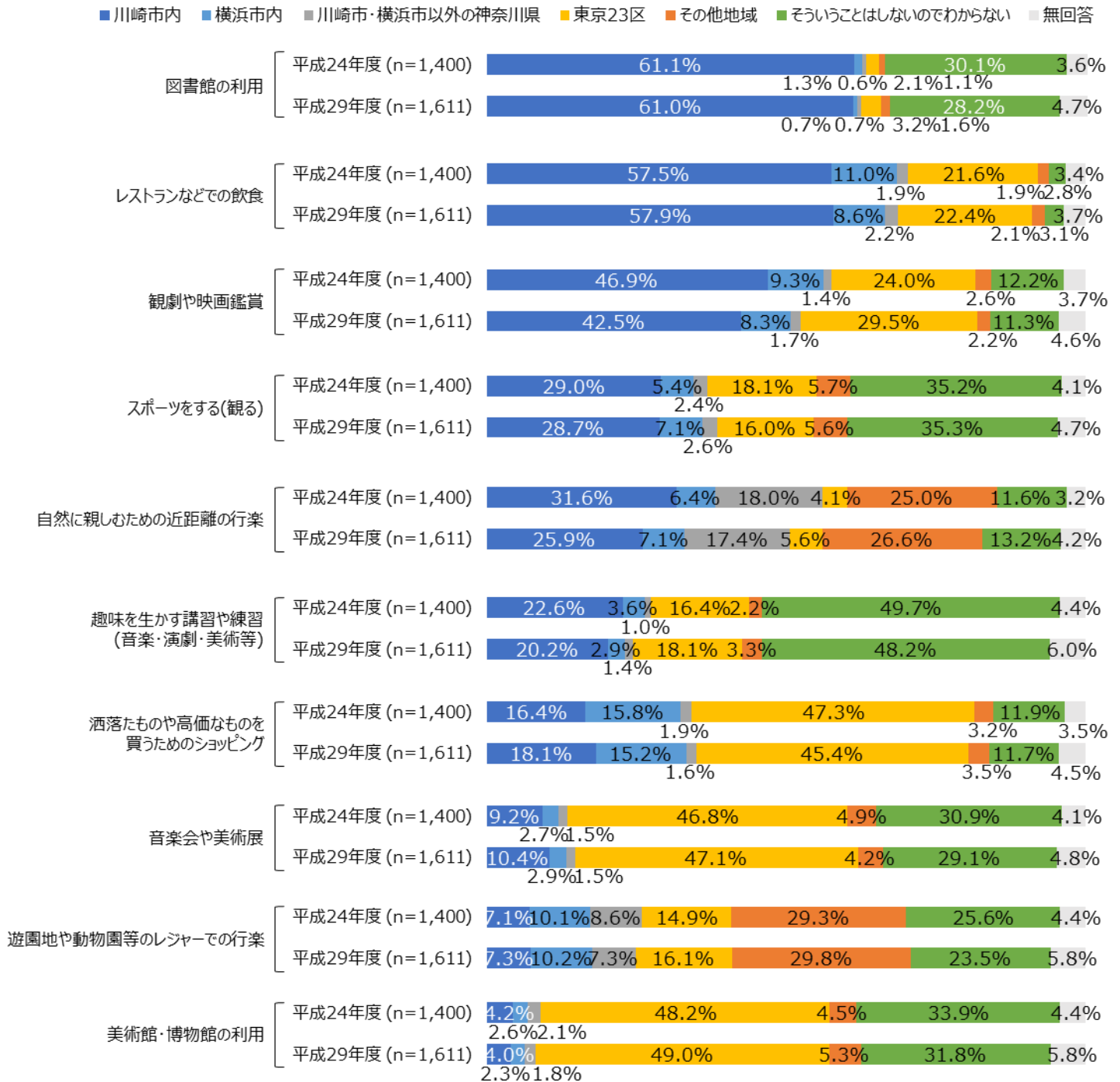
年度	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成24年 (n=1,400)		健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1
平成25年 (n=1,422)		健康 67.2	老後の生活 52.4	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 41.8	趣味・娯楽 40.3	お金・財産 39.2
平成26年 (n=1,345)		健康 67.8	老後の生活 50.9	家族 49.8	仕事(家事や勉強も含む) 45.3	お金・財産 43.3	趣味・娯楽 39.0
平成27年 (n=1,300)		健康 70.4	家族 56.9	老後の生活 53.1	お金・財産 49.8	仕事(家事や勉強も含む) 42.5	子ども 38.2
平成28年 (n=1,351)		健康 70.8	老後の生活 50.5	家族 49.1	お金・財産 44.3	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	趣味・娯楽 39.0
平成29年 (n=1,611)		健康 64.8	老後の生活 49.2	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 43.2	お金・財産 43.1	趣味・娯楽 34.6

2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

『川崎市内』の利用率が最も高いのは「図書館の利用」(61.0%)で、次いで「レストランなどでの飲食」(57.9%)、「観劇や映画鑑賞」(42.5%)の順となっており、これら上位3項目の順位については、5年前と同じであった。

5年前(平成24年度)と比較すると、「観劇や映画鑑賞」では『川崎市内』の利用率が4.4ポイント減少したのに対し、『東京23区』が5.5ポイント増加している。

図6



4

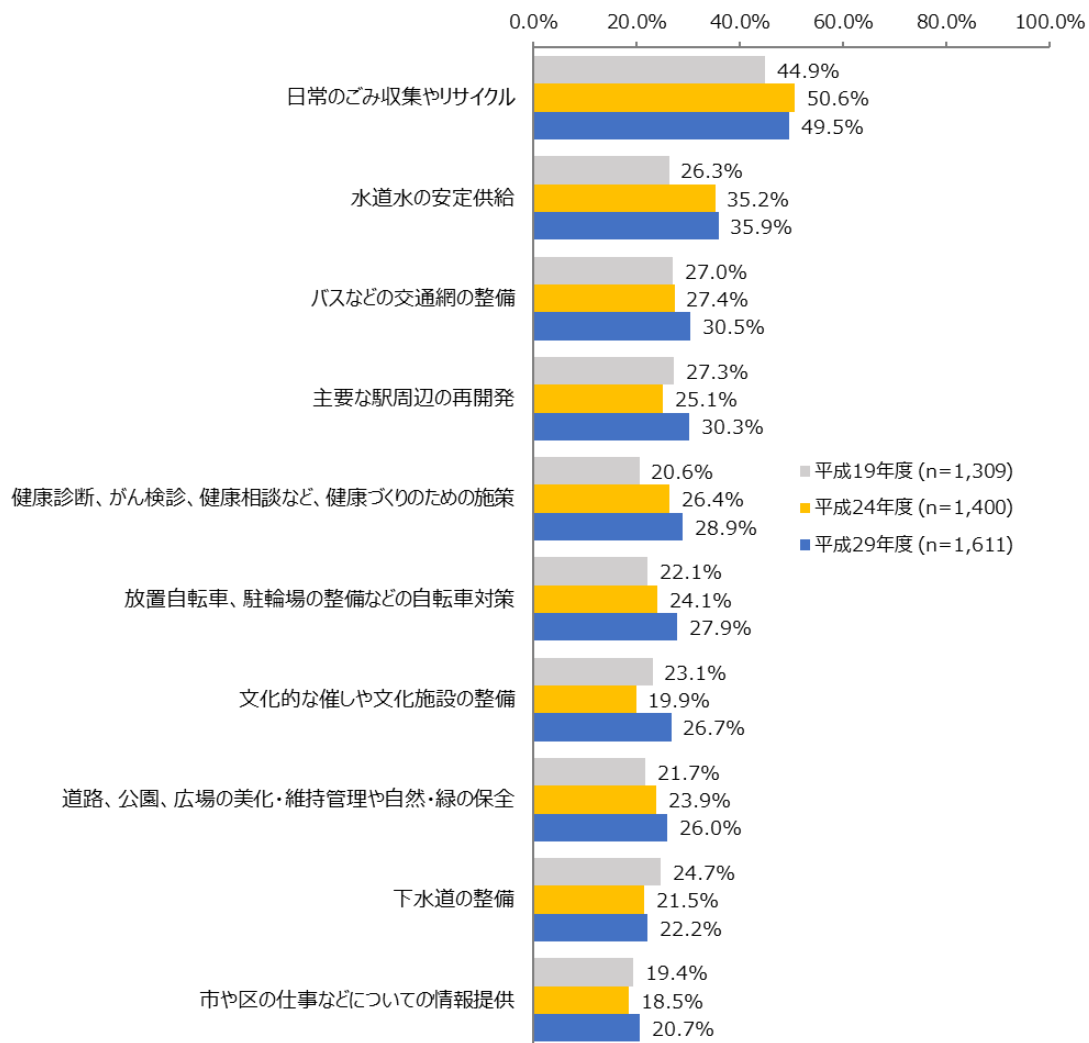
市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

「日常のごみ収集やリサイクル」(49.5%)が最も高く、次いで「水道水の安定供給」(35.9%)、「バスなどの交通網の整備」(30.5%)、「主要な駅周辺の再開発」(30.3%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(28.9%)の順であった。

5年前(平成24年度)と比較すると、上位3項目について順位に変動はなかった。また、「日常のごみ収集やリサイクル」は10年前(平成19年度)から一貫して最上位である。

図7 (複数回答、上位10項目、平成29年度・平成24年度・平成19年度との比較)



※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」は、平成19年度と平成24年度は「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、両年の数値は、3項目の平均値を掲載している。

※「文化的な催しや文化施設の整備」は、平成19年度と平成24年度は「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」と「映画祭、国際会議などの文化的な催しや活動」で実施しており、両年の数値は、2項目の平均値を掲載している。

※平成19年度の「水道水の安定供給」は「飲料水の安定供給」で実施している。

※回答選択肢は、平成19年度と平成24年度は35項目で、平成29年度は31項目で実施している。

2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

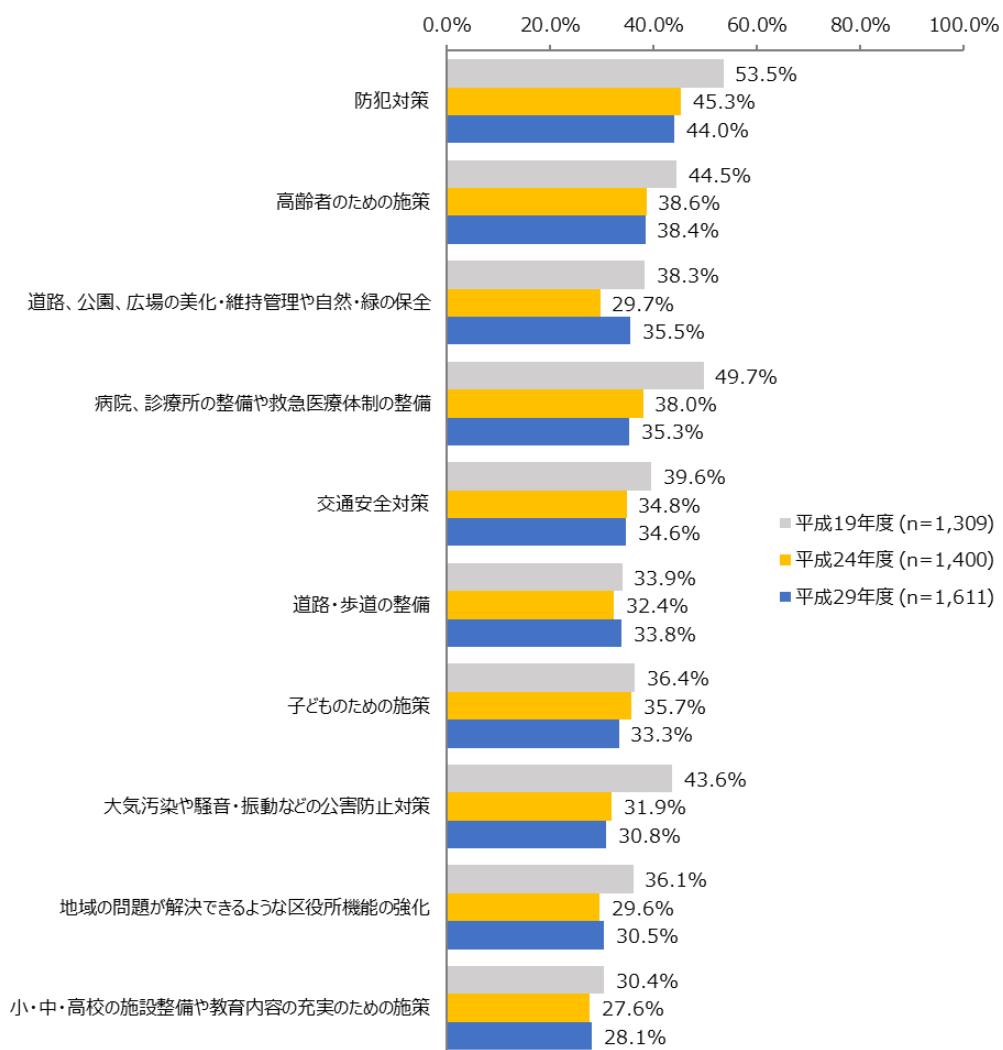
「防犯対策」(44.0%)が最も高く、次いで「高齢者のための施策」(38.4%)、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」(35.5%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(35.3%)、「交通安全対策」(34.6%)の順であった。

5年前(平成24年度)と比較すると、上位2項目については順位に変動はなく、5年前は「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」が第3位で、第4位が「子どものための施策」、第5位が「交通安全対策」であった。

また、10年前(平成19年度)は「防犯対策」が最も高く、次いで「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」「高齢者のための施策」の順であった。

図8

(複数回答、上位10項目、平成29年度・平成24年度・平成19年度との比較)



※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」は、平成19年度と平成24年度は「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、両年の数値は、3項目の平均値を掲載している。

※「文化的な催しや文化施設の整備」は、平成19年度と平成24年度は「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」と「映画祭、国際会議などの文化的な催しや活動」で実施しており、両年の数値は、2項目の平均値を掲載している。

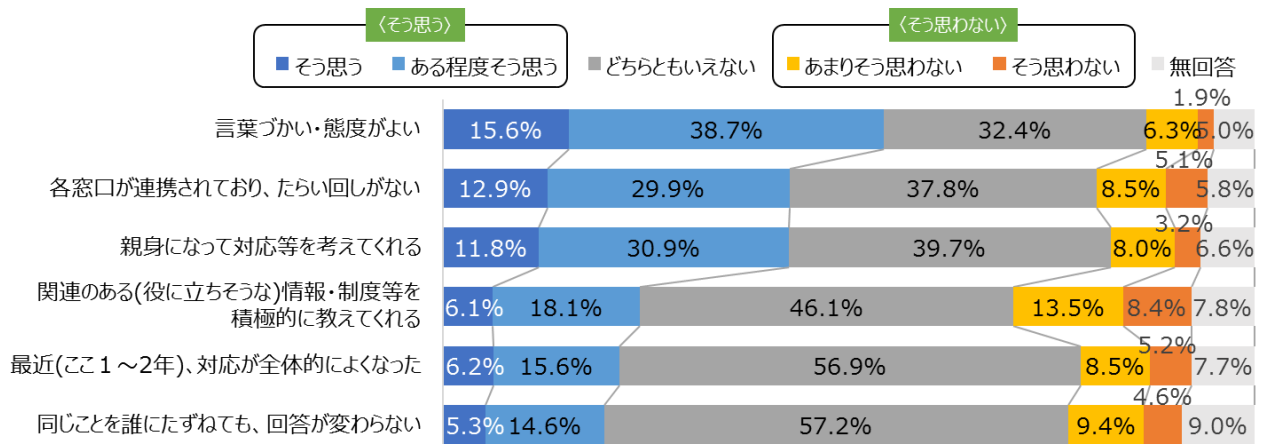
※平成19年度の「水道水の安定供給」は「飲料水の安定供給」で実施している。

※回答選択肢は、平成19年度と平成24年度は35項目で、平成29年度は31項目で実施している。

1 市職員の市民対応等について

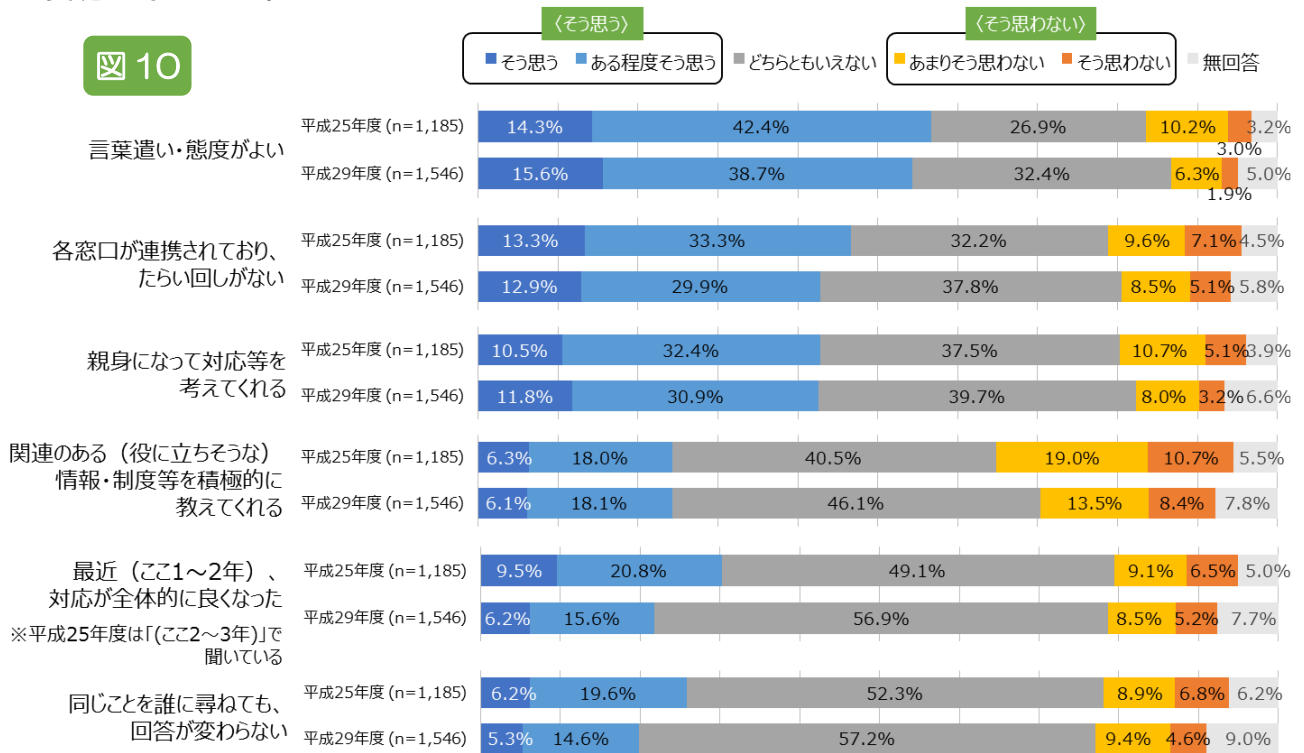
市職員の市民対応等について、どのように感じているかを聞いたところ、市職員と「接したことがある」と回答した人(n=1,546人)の中で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた「そう思う」の割合が最も高かったのは「言葉づかい・態度がよい」(54.3%)で、次いで「各窓口が連携されており、たらい回しがない」(42.8%)、「親身になって対応等を考えてくれる」(42.6%)の順であった。

図9 (市職員と接したことがある人) (n=1,546)



4年前(平成25年度)と比較すると、「言葉づかい・態度がよい」「各窓口が連携されており、たらい回しがない」「親身になって対応等を考えてくれる」「関連のある(役に立ちそうな)情報・制度等を積極的に教えてくれる」の各項目については、大きな評価の変化はなかった。

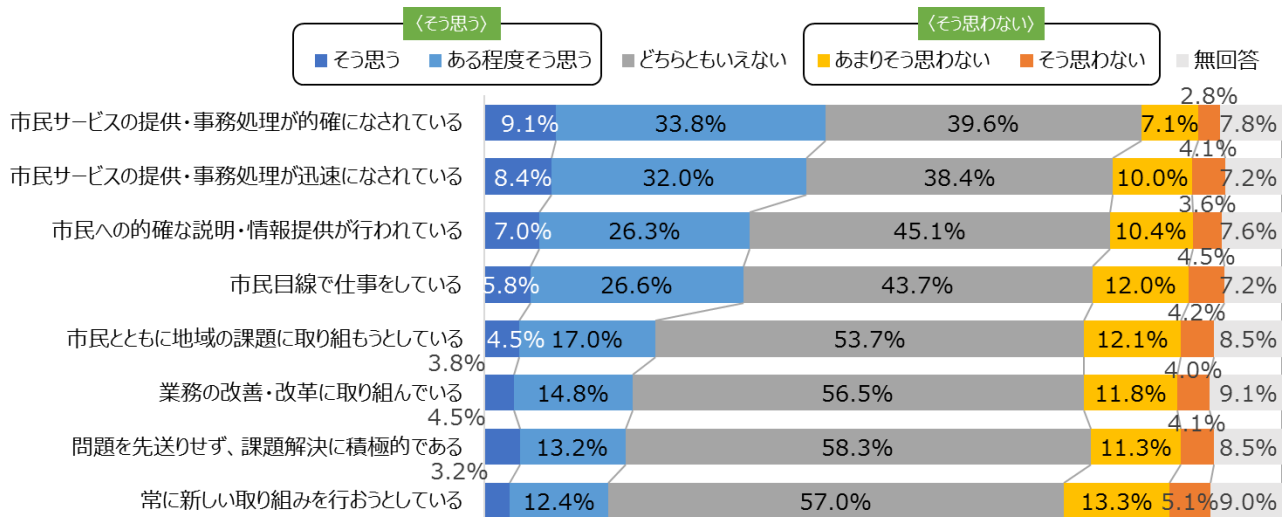
図10



2 市職員の仕事ぶり

市職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っているかを聞いたところ、市職員と「接したことがある」と回答した人(n=1,546人)の中で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた「そう思う」の割合が最も高かったのは「市民サービスの提供・事務処理が的確になされている」(42.8%)で、次いで「市民サービスの提供・事務処理が迅速になされている」(40.4%)、「市民への的確な説明・情報提供が行われている」(33.3%)、「市民目線で仕事をしている」(32.5%)の順であった。

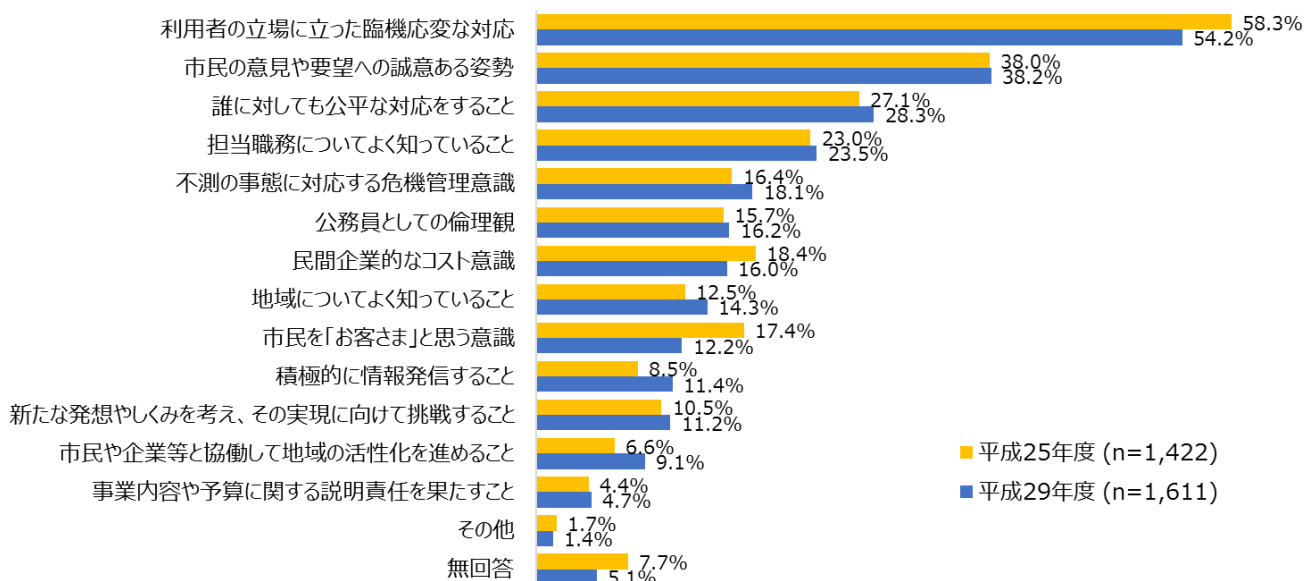
図11 (市職員と接したことがある人) (n=1,546)



3 市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの

市職員に求めるものとして、特に重要であると思うものを最大3つまで回答してもらったところ、市職員と「接したことがない」人も含めた全体(n=1,611人)では、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」(54.2%)が最も多く挙げられ、次いで「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」(38.2%)、「誰に対しても公平な対応をすること」(28.3%)、「担当職務についてよく知っていること」(23.5%)の順であった。これら上位4項目の順番は、4年前(平成25年度)と同様であった。

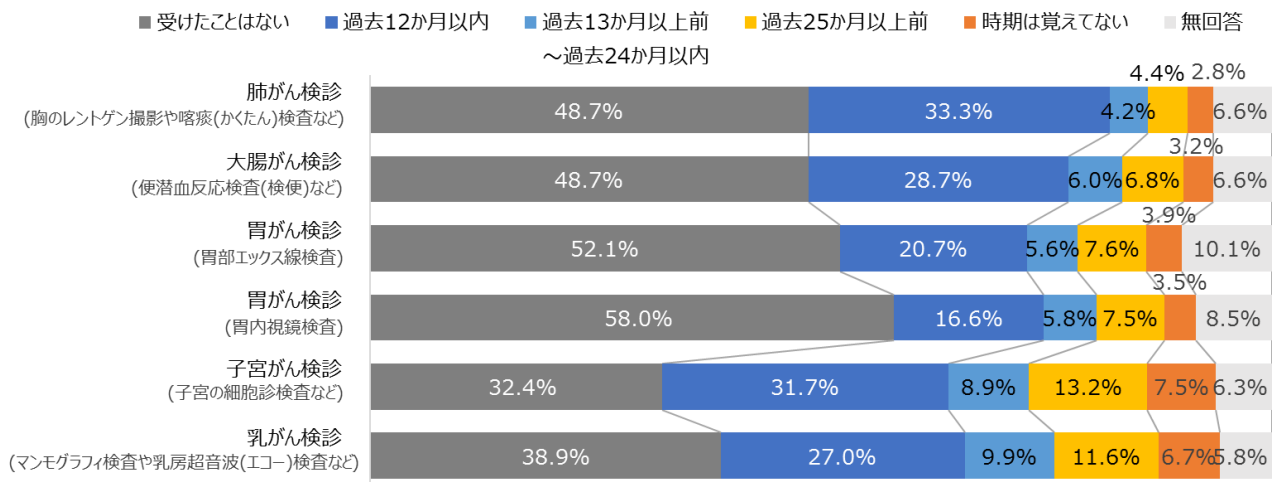
図12 (3つまでの複数回答、平成29年度・平成25年度との比較)



1 がん検診の受診状況

過去1年以内にごがん検診を受診した人の割合は「肺がん検診」(33.3%)、「大腸がん検診」(28.7%)、「胃がん検診(胃部エックス線検査)」(20.7%)、「胃がん検診(胃内視鏡検査)」(16.6%)であった。また、過去2年以内に女性対象のごがん検診を受診した人の割合は「子宮がん検診」が40.6%で、「乳がん検診」が36.9%であった。

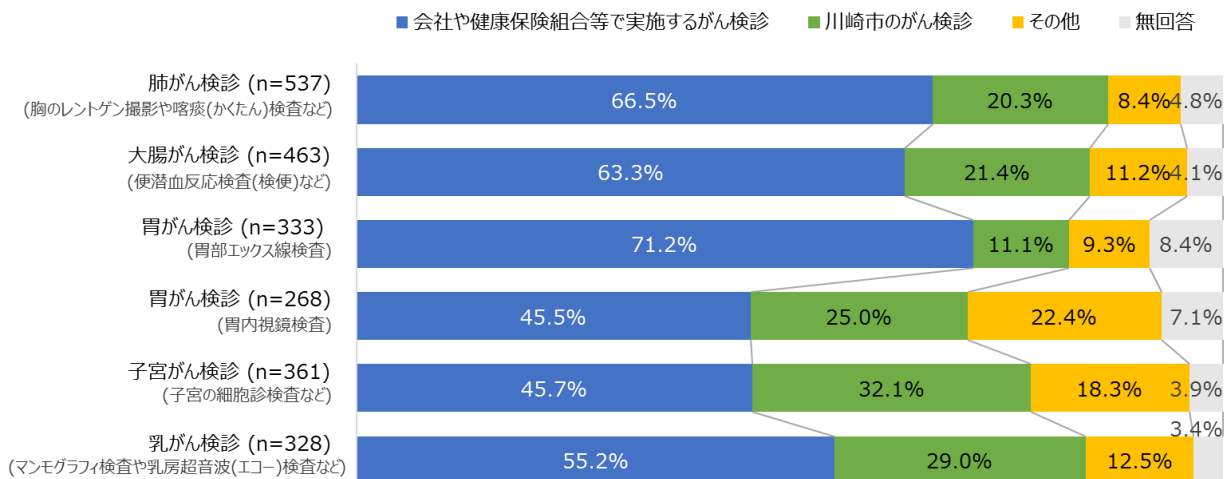
図13 (n=1,611) ただし、「子宮がん検診」と「乳がん検診」は女性に占める割合を示す。(n=889)



2 がん検診を受診した機会

いずれの検診においても「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診した人の割合が最も高く、中でも「胃がん検診(胃部エックス線検査)」「肺がん検診」「大腸がん検診」では、過去1年以内受診者の6～7割が「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診している。なお、女性対象のごがん検診では、他の検診に比べ「川崎市のごがん検診」を受診した人の割合が高くなっている。

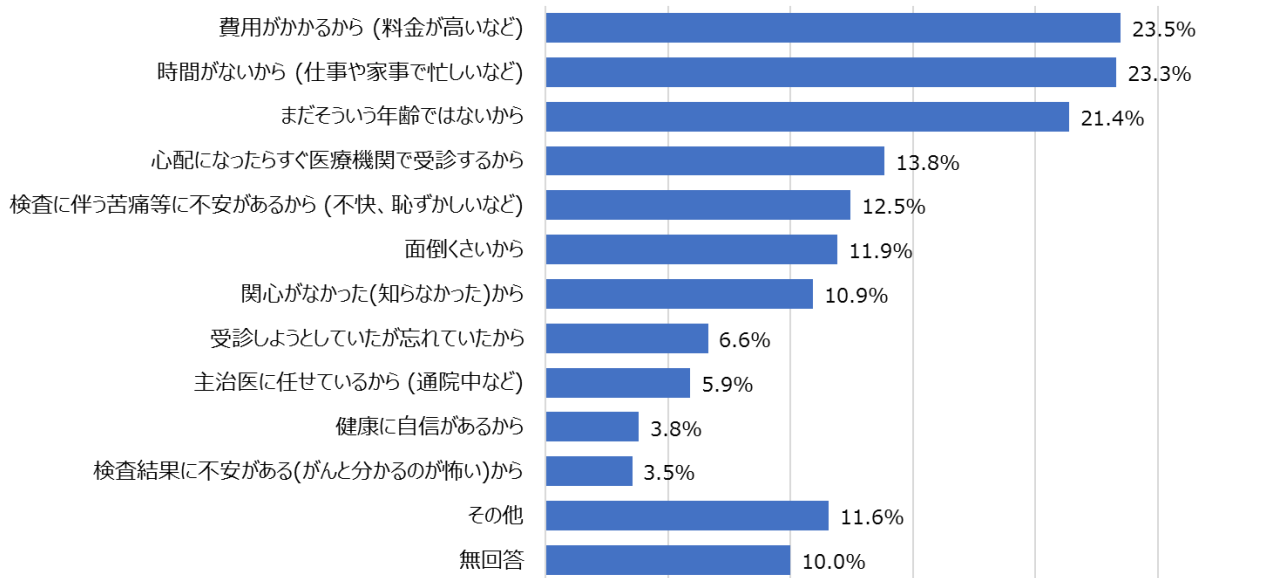
図14 (過去1年以内にそれぞれの検診を受診した人)
(「子宮がん検診」と「乳がん検診」については、過去2年以内に受診した人)



3 がん検診を受診していない理由

受診していないがん検診がある人(n=1,099人)にその理由を聞いたところ、「費用がかかるから(料金が高等いなど)」(23.5%)、「時間がないから(仕事や家事で忙しいなど)」(23.3%)、「まだそういう年齢ではないから」(21.4%)などが主な理由であった。

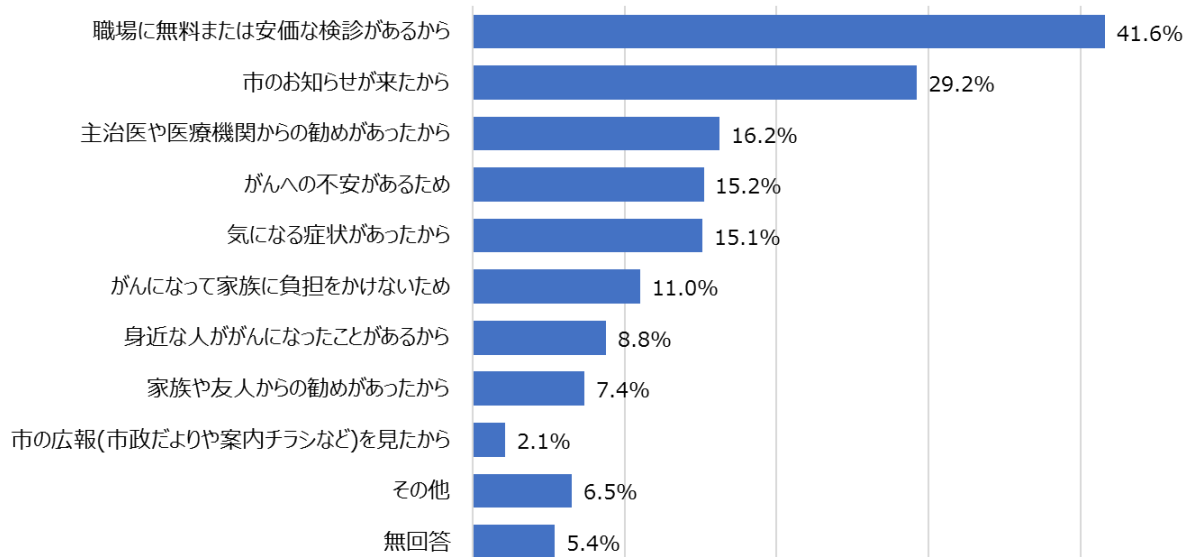
図15 (複数回答)(受診していないがん検診がある人)(n=1,099)



4 がん検診を受診した理由

これまでにいずれかのがん検診を受診したことがある人(n=1,071人)に、受診した理由を聞いたところ、「職場に無料または安価な検診があるから」(41.6%)が最も多く、次いで「市のお知らせが来たから」(29.2%)、「主治医や医療機関からの勧めがあったから」(16.2%)、「がんへの不安があるため」(15.2%)、「気になる症状があったから」(15.1%)の順であった。

図16 (複数回答)(これまでにいずれかのがん検診を受診したことがある人)(n=1,071)

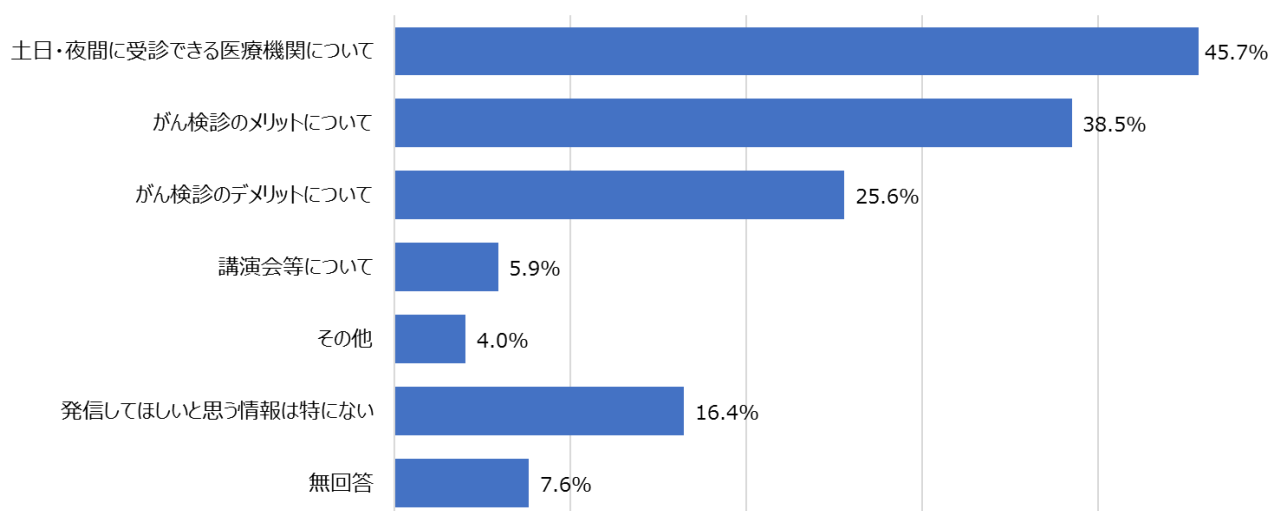


5 がん検診について、市から発信して欲しい情報

がん検診について、どのような情報を市から発信して欲しいか聞いたところ、「土日・夜間に受診できる医療機関について」が45.7%で最も多かった。次いで、「がん検診のメリットについて」(38.5%)、「がん検診のデメリットについて」(25.6%)の順であった。

一方で、「発信してほしいと思う情報は特にない」とする人も16.4%であった。

図17 (複数回答)(n=1,611)



平成29年度第2回かわさき市民アンケート概要版
平成30年2月

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通)
FAX 044-200-3919